

論文要旨

経営学研究科
経営学専攻修士課程
マーケティングコース
細谷 肖子

本研究は美しくありたいと思う女性が、娘との関係を通して理想となる自己を追求することにより自己を拡張させるという母娘関係の再構築プロセスと、母娘という特殊な関係性により自己拡張とならない女性の意識について理解を深めることを目的としている。

母親の拡張自己として特殊ケースの一つである他者としての娘が重要な役割を演じ、母親自身が果たしえなかった理想自己を娘を通じて実現しようとすることは明らかである。母親の役割から生涯女性でいたいという個人的アイデンティティを重要と考える女性が増えていることにより、母と娘との新たな関係性がうまれる。

本研究では解釈主義アプローチに依拠し、半構造化インタビューを実施した。インタビューで得たテキストデータについて定性的に分析を行った。更に可視化ツール KeyGraph により解釈の見える化を行った点に意義がある。

本研究の意義は以下の3点である。

第一に、美しくありたいと思う女性が、娘との関係を通して理想となる自己を追求することにより自己を拡張する場合、娘との親密な関係を構築し娘を自己に内包する。母親は娘を通して自己を拡張させることを提示した。

第二に、娘が拡張した自己とならない、新たな母と娘との関係性が明らかになった。女性にとって娘は一番身近にいる若く美しい理想自己であるが、拡張した自己ではなく独立した存在ととらえているのである。更に娘に対しなんらかの否定的な感情をもつことが確認された。

第三に、娘を通して自己を拡張させる部分と自己拡張とならない部分を合わせ持つ女性が存在することがわかった。母と娘との関係の多様性を示しており、女性がもつ役割の変化によると考える。